



### Profile — 平木典子

1964年、ミネソタ大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。立教大学学生相談所カウンセラー、日本女子大学人間社会学部心理学科教授、跡見学園女子大学臨床心理学科教授を経て、現在統合的心理療法研究所 (IPI) 所長。著書は『統合的介入法』(東京大学出版会)、『心理臨床スーパーヴィジョン』(金剛出版)、『アサーション・トレーニング』(日本・精神技術研究所) など。

私は、1961年9月から1964年3月まで、米国ミネソタ州立大学大学院教育心理学専攻の修士課程で大学院生活を送りました。1960年代の日本は、戦後の復興からアメリカに学び、とりわけ教育界では民主主義教育の新しいリーダー育成に北米の支援が不可欠な時代でした。また、1ドル360円、外貨購入は200ドルまでという厳しい状況の中で、多くの留学生はフルブライトなどの奨学金を得て渡米する時代でもありました。

当時大学の学生部で仕事していた私がミネソタ大学を選んで留学した理由は、①日本にはカウンセリングを学べる大学のコースがなかったこと、②1950年代に北米政府がカウンセリングの普及のために日本に派遣した教育使節団の中にミネソタ大の教授二人がいたこと、③その一人であったE.G.ウイリアムソン博士のキャリア・カウンセリング理論を基礎としたカウンセラー養成プログラムは、とりわけ北米のスクール・カウンセラー志望者のメッカとなっ

## 1960年代のアメリカ

統合的心理療法研究所 所長

### 平木典子 (ひらき のりこ)

ていたことでした。

ミネソタ大学大学院のカウンセラー養成プログラムは、学生や子どもたちのキャリア支援という考え方を基本にして成り立っていました。ここで使用している「キャリア」という言葉は、北米では「生き方」(ライフ・キャリア)であり、日本で理解されている「職業」のみを指していませんでした。

したがって、カウンセリングとは、まず一人ひとりの人生における自己実現(キャリア発達の視点からの人生設計)を目的とした心理支援になります。その支援の中には、子どもや学生の対人関係能力や学習能力などさまざまな心理的能力の開発・支援があります。さらに、個人によっては自己実現を阻んでいる挫折や心理的外傷からの回復や癒しなども不可欠です。カウンセリングとは、人々の生涯にわたる個と環境の相互作用のプロセスで行われる治療的・回復的働きかけから教育的・開発的働きかけまでを含む適切な心理的支援をすることだということを学びました。

とりわけ私が大きな影響を受けたのはウイリアムソンのカウンセリング哲学でした。当時、ウイリアムソンとC.ロジャーズは、指示的カウンセリング、非指示的カウンセリングの主導者として論争をしていたカウンセリング界の両巨頭でしたが、アメリカ心理学会でロジャーズの批判に答えて「あなたの主張する非指示的関わりはありえない、カウンセラーの価値

観や生き方は対話の中の傾き一つにも反映される」と主張して、カウンセラーとはいかにあるべきかを深く追求する姿を示してくれました。

また、当時ウイリアムソンは学生部長を兼任していて、人種と性の差別撤廃を含めて学生の公平で自由な議論の場の創造にエネルギーを注いでいました。自治会活動やサークル活動、ゼミなどの集団活動で、誰もが異なった意見を述べ合い、議論を尽くして納得のいく結論を生み出すプロセスを奨励していました。個を大切にしながら他者と共に生き、何かを成し遂げていく学生たちの姿は、私に「民主主義」を教えてくれたと思っています。

私の帰国後、博士は日本カウンセリング学会と日本学生相談学会の招きで何度も来日され、その初期の発展に貢献されました。大学でカウンセラーをしていた私には、旧交を温めながら、あふれる知恵と刺激に触れ続ける機会でした。

その後の私自身のカウンセリングは、現場の必要に迫られてどんどん治療的实践に傾倒していききましたが、現在、家族療法を中軸とした統合的アプローチを志向するようになったことには、ウイリアムソンの広い視野から鳥瞰しつつ、いま・ここで必要なピンポイントの支援を選択するという姿勢からの学びが反映されていると思っています。

あらためて1960年代に北米でカウンセリングを学んだことの意味を実感しています。